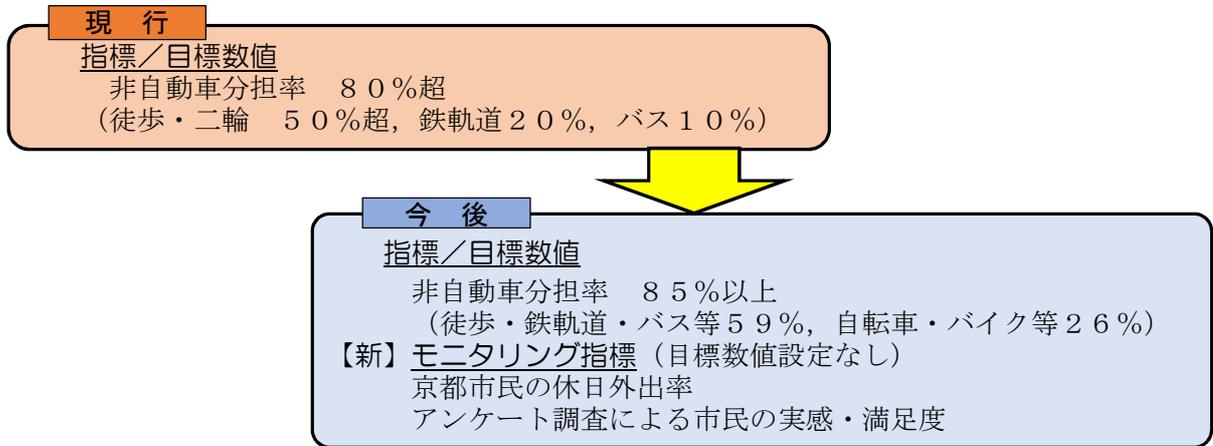


「歩くまち・京都」総合交通戦略2021（仮称）で設定する指標について

1 指標の設定について（第3回審議会のポイント）



2 審議会においてこれまでいただいた御意見

■ 「歩くまち・京都」の推進状況を把握するための指標や満足度・実感の把握について  
 （第1回・第2回）

- ・ 歩行量に加え，運動行動を促進する指標，高齢者の外出回数など，健康長寿に関わる項目を指標に入れられるとより良いのではないかと。
- ・ 満足度や実感を指標として把握する必要があるのではないかと。例えば，公共交通に対する満足度や歩いて楽しいかどうか，外出に対する満足度などが考えられる。

<前回>

- ・ 分散して歩いているのか，クルマを使わずに日常生活を送ることができるのかどうかという視点などを入れることで，分析の幅が広がるだろう。

■ 非自動車分担率を85%以上に設定することについて  
 （第1回・第2回）

- ・ 非自動車分担率80%という設定は甘いのではないかと。
- ・ 自動車を使わざるを得ない状況にある人も一定数おられることや，新型コロナウイルス感染症拡大の影響を加味し，客観的な数値を基にした現実性のある値にすべき。

<前回>

- ・ 絶対にクリアすべき数字として設定するかどうか，社会情勢による要素と取組の推進による要素を見極めつつ設定すべきではないかという意見もあった。少しでも楽しく歩くことや，公共交通へのシフトを促し，この数値に少しでも近づいていけるよう努力することが重要であり，絶対的な目標というよりも，全体として最大限努力して何とか届くものとして85%を掲げるということで整理する方向が良いのではないかと。
- ・ 指標について，コロナ以前には，例えば市民などがバスに乗れず積み残しが発生しているのではないかとということが課題となっていた。単純に2020年のデータではなく，コロナ以前の2019年の乗客数のデータとも比較・確認することが必要ではないかと。

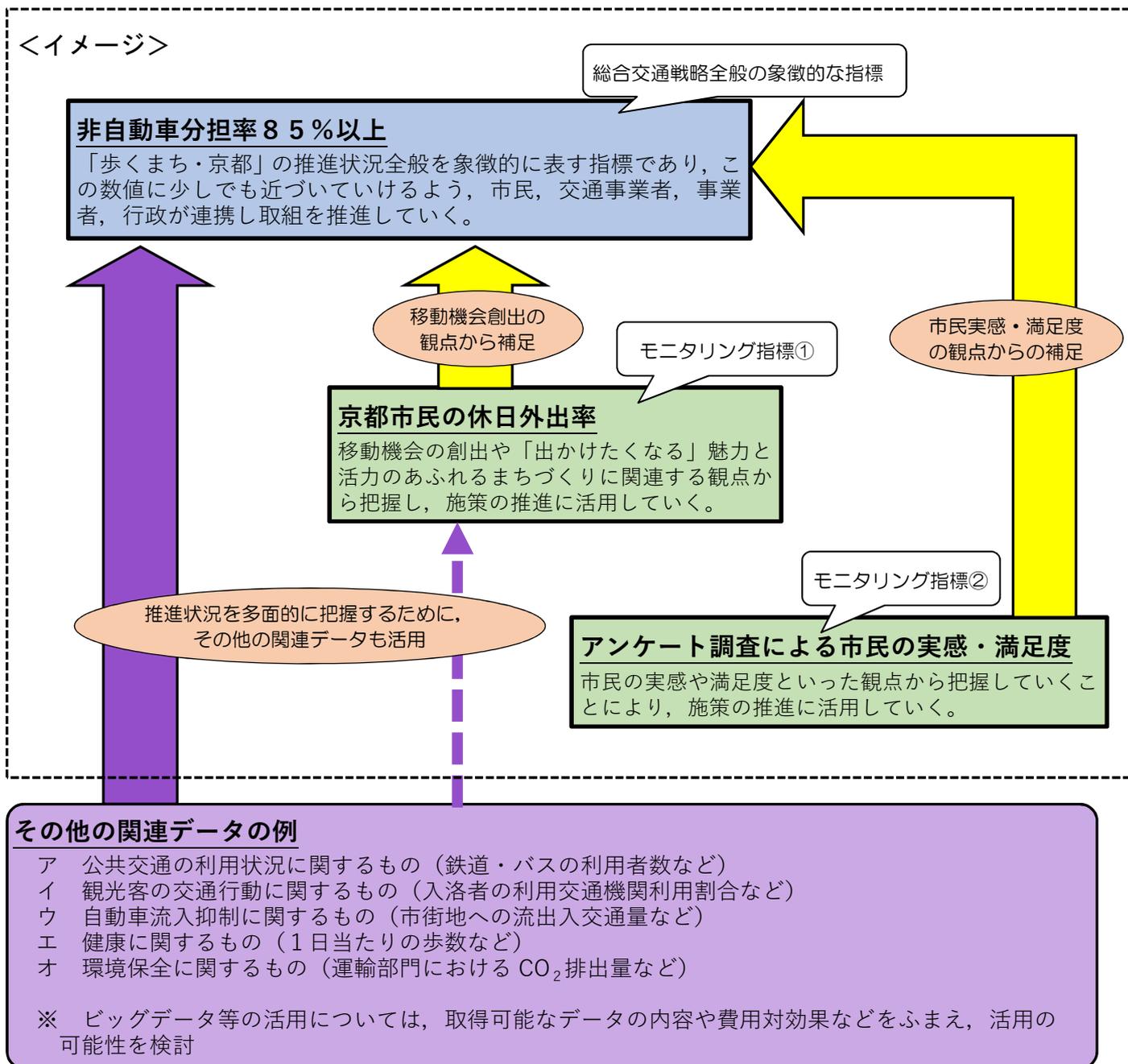
■ 指標の設定項目について  
 （第1回・第2回）

- ・ 3つの柱の施策に対応する指標が必要ではないかと。

<前回>

- ・ 非自動車分担率だけでなく，公共交通の混雑や利用者の状況も把握し，総合的に判断する必要がある。
- ・ 観光客等市民以外のモニタリング，年齢階層など，きめ細やかな分析ができれば良い。

### 3 「歩くまち・京都」推進状況を把握するための指標及びその他の参考データについて



#### 4 市民の実感・満足度の把握について

##### (1) 設問に対する基本的な考え方

3本の柱を象徴する内容についての質問項目を柱ごとに2～3個程度設定し、実感や満足度について5段階程度（【例】そうである／どちらかというとなさそうである／どちらともいえない／どちらかというとなさそうではない／そうではない）の選択肢を設定する。

##### (2) 設問項目について

総合交通戦略への記載	設問項目の例	柱1	柱2	柱3
【柱1】 公共交通の利便性や快適性に関する項目	・京都市内の移動には公共交通が便利である。 ・京都市内の公共交通での移動は快適である。 など	◎		○
【柱2】 安心・安全な歩行空間やまちの活力・魅力創出に関する項目	・京都のまちは歩きやすい。 ・京都のまちを歩くことは楽しい。 など		◎	○
【柱3】 徒歩や公共交通優先のライフスタイル実践に関する項目	・「歩くまち・京都」の取組を知っている。 ・移動の際には徒歩、自転車、公共交通の組み合わせを心掛け、クルマの利用を控えている。 など	○	○	◎

#### 参考 3つの柱の相関図

